

山本医師 ご挨拶



診療部 脳神経内科部長 兼 内科部長

山本 真士

令和元年10月から着任致しました。相生市出身です。永らく阪神間の病院で、脳神経系の急性期の医療に従事して参りましたが、これからは故郷の西播磨で、リハビリテーションを通して皆様のお手伝いが出来ましたらと考えております。よろしくお願い致します。



普段着の私

検査・放射線部 放射線科 吉野 慎吾

私がゴルフを始めたのは約3年前、友人達の誘いがきっかけでした。初めてゴルフ練習場に行った際、友人に言われるがままボールを打ってみましたが右や左に飛んだり、ときには直接地面を叩いてしまい両手がしごれたりと全くうまくいきませんでした。しかし、ゴルフすることで友人達と楽しく過ごす時間を持てたり、自分への高い目標が持てる気がして、気持ちが変わらないうちにとその帰りに中古のクラブセットを買って帰りました。

家では妻の顰蹙を買うことも予想していましたが予想以上の反応でした。でも道具は買ってしまったので簡単には止められません。それからは時間の許す範囲で友人達、時には一人でも練習場に足を運び、練習を重ねました。始めて約2カ月後にゴルフ場デビューを果たしました。結果は当然よくはありませんでしたが、大自然のなかで小さなボールを思った所に飛ばす非日常的な遊びにますますハマってしまいました。

まだプレー中は美しい自然の風景を眺めるどころか打球の行方を追うことに必死ですが、いつかはゆっくりとした気持ちで自然のなかをラウンドできたらと思っています。もしもこれを読まれる方の中でゴルフをやってみたいと思われている方がいらっしゃればぜひ始めてみてください。



部署紹介 総務部 地域支援・研修交流課

地域支援・研修交流課は、「研修事業」「福祉用具相談利用事業」「交流事業」の大きく三つの事業を担っています。

「研修事業」は、現在年間約18~20コマ実施しており、延べ受講者は1,200人を超えます。県から委託を受けている認知症介護実践研修をはじめ、脳血管障害、パーキンソン病、高次脳機能障害、ポジショニング、音楽療法といった、当センターの特徴を活かした研修を中心に実施しています。また、新規の研修として「喀痰吸引等研修」も始めました。

昨年9月には、龍野保健所との共催で「パーキンソン病のある方の地域生活支援を考えるセミナー」を開催しました。水田副院長の講義の後、山本認定難病看護師も加わり当事者及びご家族との交流会を行い、「日々の悩みを相談できた」「またこのような機会を設けてほしい」などの感想をいただきました。

「福祉用具相談利用事業」は、早期在宅復帰を目的とした患者・家族への福祉用具の情報提供をはじめ、民生委員など福祉団体の見学や、学校の体験学習など、一日平均40~50名、年間約17,000人の利用があります。最近注目を集めている介護ロボットは年々導入台数を増やし、特にコミュニケーション支援ロボットは人気高く、展示ホールの顔になりつつあります。

団体見学や体験学習の件数は横ばいの傾向にあります。打開策として西播磨圏域の福祉医療系の高校・専門学校・大学を訪問するとともに、近隣他府県の市町村約130箇所にパンフレットを送付するなどPR活動を行った結果、新規の来場件数

が飛躍的に向上しました。特に昨年10月は多忙を極め、一日に3団体もの見学があるなど、スケジュール調整に四苦八苦しました。

令和元年7月には、たつの市内の多世代交流サロンを訪問し、介護ロボットの紹介や、障害者スポーツの体験を通じて交流を深めました。「光都是たつの市でも近くで遠い。行きたくても交通手段がない。」との意見を多く聞き、今年度からこのような出前講座を始めることとしました。今後は学校にも出向く予定です。

「交流事業」は、ふれあいリハフェスタをはじめとする地域住民との交流行事、陶芸教室・絵手紙教室などの文化創造活動、認知症ケアセミナーの実施などのリハビリ関係者交流事業、そして地域のイベントなどに出演する普及啓発活動があります。

毎年11月3日には姫路城大手前公園内で開催される「ひめじ福祉まつり」に出展しています。ステージでのPRタイムでは介護ロボットや電動車いすを紹介しました。外国人の観光客も多く、身振り手振りで福祉用具を説明する機会もあり、語学力が問われる新時代の到来を感じます。

このように、どの事業にも共通するキーワードは「アウトリーチ(地域への積極的な働きかけ)」です。当センターは市街地から離れた場所にあるため、待っているだけでは施設の魅力が十分伝わりません。今後も私どもは課名のとおり、地域を支え、研修などを通じて多くの方が交流を深めることができるように、様々なことにチャレンジして参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



パーキンソン病研修



コミュニケーション支援
ロボット



ふれあいリハフェスタ

リハビリテーション西播磨病院だより

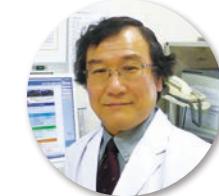
ひかりの音

2020年
1月発行



ご挨拶

副院長 水田 英二



新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返って、流行語大賞を。なんといっても「ONE TEAM(ワンチーム)」。ラグビーワールドカップ桜の戦士はベスト8進出しました。日本中を熱狂の渦に巻きこみました。チームメンバーの半分が外国出身という違和感は吹っ飛んでしまい、一緒に時を過ごす人が同胞と思えるようになりました。

「スマイリングシンデレラ/しぶこ」。こちらの渋野日向子さんは、世界一になったんだけど大賞にはなりませんでした。どうしたって「ONE TEAM」には勝てないか。笑顔がとても素敵です。隣の岡山県出身というのも何となく嬉しい。駄菓子もぐもぐもよい。もぐもぐタイムのカーリングは、一昨年「そだねー」で流行語大賞だった。1年ずれていれば大賞だったかな。

スポーツ界から流行語大賞が生まれやすいのだろうか。調べてみると2年に1回くらいスポーツ界からですね。2016年「神ってる」鈴木誠也(広島)。

2015年「トリプルスリー」柳田悠岐(ソフトバンク)、山田哲人(ヤクルト)。

2013年「お・も・て・な・し」滝川クリステル。これもスポーツ界でしょう。

2011年「なでしこジャパン」小倉純二(日本サッカー協会会長)。

2007年「ハニカミ王子」石川遼。

2006年「イナバウアー」荒川静香。

2004年「チヨー気持ちいい」北島康介。

2002年「W杯(中津江村)」坂本休(中津江村村長)。

そうそう、大分県の中津江村の名前が全国に知られることになりました。

さて、今年はオリンピック・パラリンピックの年。マラソン、競歩会場で少しごたしましたが、素晴らしい大会になると信じています。チケットの抽選には当たりませんでしたが、テレビで楽しめていただきます。今年の流行語大賞はオリ・パラからに間違いないでしょう。

話を仕事に戻して。西播磨総合リハビリテーションセンターは患者に寄り添うことはもちろんですが、障害があってもなくてもスポーツで笑顔になることを応援します。誰もが活躍することをサポートします。

県民公開講座 in 西播磨2019



当センターの恒例行事である県民公開講座を、令和元年9月14日(土)に開催しました。県民公開講座では、当センターの取り組みを広く知ってもらう観点から、これまでパーキンソン病、脳卒中、認知症をテーマに開催し、4回目の今年は「高齢者の転倒予防」と題して整形外科部門が担当しました。

当日は天候にも恵まれ、患者さんやご家族、地元住民の方々から参加応募いただき、予定人数を超える180名の方に参加いただきました。

今回は、整形外科部長の金澤参事に「転ぶとどうなる?」<総論>を、段城看護師に「転ばない場づくり」<環境整備、日常生活>を、永井理学療法士に「転ばない体づくり」<転倒予防の運動>の3部構成で、実技も交えながら、転倒→骨折→寝たきりにならないための“転ばぬ先の知恵”を参加者の皆さんと一緒に学ぶ機会となりました。

講演終了後は、当センターの福祉用具展示ホール及び障害者スポーツ施設ふれあいスポーツ交流館の施設見学会も開催し、こちらにも多くの方々にご参加いただきました。

終了後に回収した参加者アンケートでは、お褒めの言葉を多くいただきました。

ご参加いただいた皆様には、心より感謝を申し上げます。



ICTについて



みなさん、ICTという言葉をどこかで聞いたことがありますか？

Information and Communication Technology（情報通信技術）ではありません。医療業界でICTといえば、**Infection Control Team（感染対策チーム）**です。ICTは院内で起こるさまざまな感染症から患者・家族、職員の安全を守るために活動を行う組織です。当院においても、ICTメンバーとして医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、セラピスト、医事課職員が活動しており、定期的にラウンド（平たく言えば、見回りです）を実施し、菌やウィルスが広まっていくような環境になっていないか、監視！？いえいえチェックをしています。そして一年のうち、ICTメンバーが特にビリビリする時期が現在真っただ中の「冬」になります。冬はインフルエンザやノロウイルスといった感染力の強いウィルスが猛威を振るう時期です。健康な人さえこれらのウィルスに感染・発症すると体力の消耗をいたします。当院に入院されている患者さんを可能な限りそのリスクから守ろうと取り組んでいます。

感染から身を守るために最も大切なことは

「手洗い・手指消毒」です。WHO(世界保健機関)やCDC(米国疾病対策センター)をはじめとする感染対策の専門機関が手指衛生の実施を強く推奨しています。では、いつ、手指衛生を行えばいいのでしょうか？WHOは以下の5つのタイミングを推奨しています。**①患者に接する前、②無菌操作の前、③血液や体液で手指が汚染された可能性がある時、④患者との接触後、⑤患者周辺の環境との接触後**、です。「こんなに頻回に手洗いになんて行けない！」ということで普及しているのが手指消毒剤となります。手指消毒剤にはたくさんの種類があるので、基本的にはアルコールを主成分としており、手洗い場がない場所でも手指衛生を行うことができる優れものです。みなさまも病院の出入り口や病室の前など見かけたことがあるのではないでしょうか。

また、日頃の感染対策をさらに強化する目的で、当院では2019年11月より病棟看護師を中心に個人携帯用の手指消毒剤を導入しています。これによって、先ほどの5つのタイミングを意識した効率的な手指衛生が可能となり、感染拡大を最小限に止めることができると期待しています。忙しい業務だからこそ、余裕のある手指衛生を実施していただけるよう、私たちICTメンバーも現場の作業効率を考えながら活動をしていきます。定期ラウンドで指摘したことや細かい運用の変更など早く・迅速に対応していただけるのは、風通しのよいアットホームな雰囲気である当院の強みであると思っていますので、この強みを活かし病院全体が「One Team」となって感染対策に取り組んでいければと考えています。



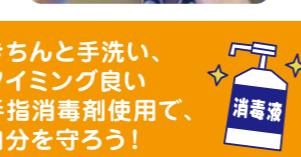
手指消毒剤の個人携帯始めました



蛍光塗料で手を汚してみました



1回の手洗いではこんなに汚れが残っています！



きちんと手洗い、タイミング良い手指消毒剤使用で、自分を守ろう！

パーキンソン病の集団訓練について

障害者病棟では、ご入院中のパーキンソン病患者様を対象に集団訓練を行っています。プール訓練と運動プログラムに分かれ実施しており、運動プログラムでは、調理訓練、音楽療法、パーキンソンダンス、ヨガを行います。調理訓練では、楽しみながら多重課題を行い、家事動作の訓練はもちろん、患者様同士の情報交換の場となります。音楽療法では、歌を歌うことにより発声練習を行います。パーキンソンダンスやヨガでは、疲れた筋肉をほぐすこと、バランス能力の改善を図ります。

プール訓練は病院に隣接するふれあいスポーツ交流館で週2回行っています。交流館の体育指導員と共に、水中での歩行や泳ぐことによって精神的リラックスや疼痛緩和を図ります。

教育プログラムとしては、栄養指導、薬剤指導、疾患の理解（副院長と患者との対話）、排泄指導、嚥下指導があります。医師、認定看護師をはじめ、管理栄養士、薬剤師等の様々な職種からの指導があるため、豊富な知識が得られるようになっています。

現在の状態を維持し、よりよい日常生活を図るため、同じ病気を持つ仲間と一緒に、ぜひ集団訓練に参加してみませんか？



看護師一同、お待ちしております！



ふれあいリハフェスタ in 西播磨 2019

10月13日(日)、台風19号の影響により一部プログラムを変更しましたが、お子様連れを中心に約1,800人のお客様にご来場いただきました。

- ① 屋内ステージでのアトラクション
- ② ふれあいスポーツ交流館でのASハリマアルビオントップ選手とのサッカーイベント、障害者スポーツ体験
- ③ 交流ホールでのワークショップ、医療相談、患者団体紹介、福祉用具体験
- ④ 飲食・特産品販売コーナー、綿菓子無料配布
- ⑤ スタンプラリー＆お楽しみ抽選会

など多彩なメニューを実施し、会場全体が熱気に包まれました。

お祭りシーズンで客足を心配しましたが、西播磨地域での知名度も年々高まり、おかげさまで「秋の光都」といえばリハフェスタ」というイメージも定着しつつあります。

なお、障害者スポーツ体験や福祉用具体験は、一年を通じていつでも行えますので、当センターへ気軽にお越しください。



“おんせん”と“うまいもん”でおもてなし
いよいよ11月6日松葉ガニ解禁!

カニおすすめプラン
平日1泊2食付 1室2名様利用
大人お一人様(65歳以上の方)

写真はカニお湯ぬめコースです
(2人前のみ2人前、その他は1人前です)



19,450円～
(税込)

浜坂温泉保養荘
(0796)82-3645
〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775
<http://www.hamasaka-ni.com/>



Play Sport



TEL 0791-58-1313
FAX 0791-58-1323
679-5165
たつの市新宮町光都1-7-1